

「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」
基本構想（案）

令和 2 年 3 月

徳島県農林水産部林業戦略課
新次元プロジェクト推進室

目 次

第1章 基本的な考え方	1
1-1 「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」整備の必要性	1
1-2 基本理念	3
1-3 基本コンセプト	4
（1）赤ちゃんから高齢者までが楽しめる「集いの空間」	4
（2）徳島の木をまるごと感じる「体験の空間」	4
（3）木の恩恵、木の知識、木の文化を知る「学びの空間」	4
（4）子どもたちの感性・創造力を育む「遊びの空間」	4
（5）徳島を魅せる「にぎわい発信の空間」	4
第2章 施設整備内容について	5
2-1 施設の整備方針	5
（1）施設の整備場所と選定理由	5
（2）立地条件を活かした整備	6
（3）県民に親しまれ永く利用されることに配慮した整備	6
2-2 施設の内容	7
（1）整備のポイント	7
（2）施設に使用する材料及び調達方法	8
1）材料	8
2）調達方法	9
（3）施設の機能	10
1）徳島ならではの機能・物語	10
2）施設内に整備する具体的空間	12
第3章 運営について	17
3-1 運営体制	17
（1）運営方針	17
（2）運営方法	17
1）運営者の選定	17
2）入館料の設定	17
3）運営上の工夫	18
（3）運営主体	18
3-2 スタッフ（職員・おもちゃ学芸員）	19
（1）人数と配置計画	19
（2）人材育成	19
3-3 関係機関等との連携・協働	20
（1）県内林業・木材産業、子育て支援団体等	20
（2）県内の木育関連施設	21
（3）全国の姉妹美術館	22
3-4 集客戦略	23
（1）情報発信	23
（2）入場者予測	23
（3）県民との協働による集客	24
第4章 整備スケジュール	25
【参考資料】「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」建築に向けた専門タスクフォース	26

第1章 基本的な考え方

1-1 「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」整備の必要性

徳島県は県土の約4分の3を森林が占め、その多くは利用可能な時期を迎えており、林業で地域経済の活性化を目指すべく平成17年度より林業プロジェクトを展開し、昨年7月からは、「スマート林業プロジェクト」として、森林資源の循環利用、さらには豊かな森林づくりに力を注いでいます。

林業の振興を図っていくためには、木材を積極的に利用して頂くことが必要であり、住宅の建築はもとより、赤ちゃんから高齢者まで全世代の方に、木材を身近に感じ、生活に再び取り入れてもらうため、「木とふれあい、木に学び、木でつながる」木育という観点からも、木材の需要拡大に繋げる取組が重要です。

県では、平成24年12月に全国に先駆けて制定した「徳島県県産材利用促進条例」に「木育の推進」を位置づけ、県民総ぐるみの木づかい運動の推進役として、林業、木材、建築関係に加え、大学や商工、子育て支援団体など幅広い皆様が参画し、設立した「とくしま木づかい県民会議（現在：123団体）」による、毎年秋の「とくしま木づかいフェア」の開催や、平成30年度末までに県内20か所に木育の体験施設「すぎの子木育広場」を設置するなど、木育への理解を深められるよう、「徳島ならではの」取組を進めてきました。

また、昨年2月16日に東京おもちゃ美術館と共催した、西日本初となる「全国木育サミットin徳島」では、県内外から600人を超える方々が参加し、木のぬくもりを取り入れた暮らしを目指す「ウッドスタート」を高らかに宣言するとともに、100を超える県内の企業、団体、個人の皆様からは、木育活動を通じた持続可能な社会の実現や豊かな子育て環境の整備を目指す「とくしま木育共同宣言」が行われるなど、木育と木材利用に関する熱い話題を、徳島から全国に発信することができました。

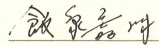
これらの成果をレガシーとして継承し、県内の木育関連施設のネットワーク化による木育の取組をさらに発展させるため、赤ちゃんから高齢者まで、全世代が徳島の木をまるごと体感できる、新たな木育の中核拠点として「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」を整備するものです。




Wood Start
 ウッドスタート宣言

日本は、国土の約3分の2が森林に覆われている、世界でも有数の森林大国です。また、太古の昔から木の文化を持ち合わせている国でもあります。しかしながら、現在、木材の自給率は36%程度となっており、また、近年は森林、特に人工林の手入れ不足が問題化しています。徳島県は、県上の約8割を山地が占め、温暖な気候のもと、豊かな森林が育まれ、その多くが利用時期を迎え、木材供給という重要な役割を担っています。そこで、徳島県と東京おもちゃ美術館は、「ウッドスタート」を推進することで、豊かな自然や身近にある木と触れることにより、豊かな子育て／子育て環境を整えるだけでなく、木の良さを知り、暮らしに木を取り入れることで、地域材木製品の消費を増やし、そのことが日本の森を育て、守ることにつながる循環型社会を構築することを目指します。私たちは、ここに「ウッドスタート」を宣言し、暮らしの中に木を取り入れ、木の持つ可能性を最大限に引き出し、それを子育て／子育てに生かす取り組みを、協力し合いながら進めていくことを誓います。

平成31年2月16日

 徳島県 ×  東京おもちゃ美術館
 × 

とくしま木育共同宣言


「木とふれあい、木に学び、木でつながる」木育活動を通して、

1. 森林と地球環境の保全につとめ、持続可能な社会の実現を目指します
2. 子どもたちの豊かな心、感性と人間性を育む環境づくりを目指します
3. 豊かな森林資源の有効利用を促進し、地域活性化を目指します
4. 素晴らしい木造伝統技術や木の文化を継承し、これらに親しみ大切にする心を育てます
5. 産学民官が連携して、次世代の優れた人材を育てます

1-2 基本理念

徳島の豊かな森林資源を「未来へ継承」するため、赤ちゃんから高齢者まで、県内外から多くの方々が「集い」、木がもたらす文化や知恵を「学び、遊び、体験」でき、その「にぎわい」と、徳島の魅力を「全世界へ発信」とともに、当館で木に触れ木の良さを体感し、生活の中に木を取り入れていただく契機となる施設とします。

また、これまで県内で築いてきた木育の取組の中核拠点として、県内20か所に整備された「すぎの子木育広場」をはじめ、ウッドスタート宣言を行っている那賀町や三好市の施設など様々な木育関連施設と連携した企画立案はもとより、相談機能や人材育成機能などを有する徳島ならではの「新たな木育の中核拠点」として整備します。

また、東京おもちゃ美術館の姉妹館となることから、

- ・生涯学習の場が生み出す「多世代交流」
- ・豊かな心を育む「遊び文化を伝える」
- ・地産地消の木材と人材の活用が生み出す「木育」
- ・地域の宝となる「観光資源」

としてのおもちゃ美術館を目指すとともに、県営の美術館というスケールメリットを活かし、「川上から川下の連携」をキーワードに、他にはない、幅広い「木づかい」の発信拠点としても位置づけます。

1-3 基本コンセプト

基本理念を踏まえ、次の5つの空間が融合する木のおもちゃ美術館とします。

(1) 赤ちゃんから高齢者までが楽しめる「集いの空間」

- ・ 人口減少、少子高齢化の進む日本社会においては、各家庭が孤立するような状態を緩和する「サードプレイス」(第3の居場所・空間)へのニーズが高まりつつあり、当館は、親子だけでなく全世代が集い、スタッフも含めた交流が楽しめます。

(2) 徳島の木をまるごと感じる「体験の空間」

- ・ 徳島の木をふんだんに使用した館内で、家族で木工を行ったり、VRなど最新器機で林業や木材産業の職業や木に囲まれた暮らしを実感できる住空間が体験でき、また、伝統文化を体感できるなど、様々な体験を通じて木の良さを感じていただけます。

(3) 木の恩恵、木の知識、木の文化を知る「学びの空間」

- ・ 全国初の県営の姉妹美術館として、全国屈指の森林県である徳島県における林業の歴史や木材産業の変遷が学べるとともに、現在における木に関する産業の状況を幅広く学べる施設とし、木の恩恵や知識、徳島の木を文化を「学び」・「知る」ことで、多くの方に木を「つかう」意識を醸成します。

(4) 子どもたちの感性・創造力を育む「遊びの空間」

- ・ 子どもたちの感性を刺激し、成長につながる木のおもちゃを配置するとともに、一人で遊べるものから大勢で楽しむもの、また、コミュニケーションが必要なもの、創作するものなど、多様な木のおもちゃに触れ、遊ぶことで木の良さを感じ、感性・創造力を育みます。

(5) 徳島を魅せる「にぎわい発信の空間」

- ・ 県内20か所にある「すぎの子木育広場」をはじめウッドスタート宣言を行っている市町村のサテライト拠点や様々な木育関連施設とのネットワークを構築するほか、全国の姉妹美術館と相互に連携することで県内外に県産材の魅力を発信します。

第2章 施設整備内容について

2-1 施設の整備方針

(1) 施設の整備場所と選定理由

【整備場所】

県有の既存ストックの有効活用を基本とし、アクセスの良さ、災害等の危険度、運営面等を勘案し、「あすたむらんど徳島・四季彩館」(徳島県板野郡板野町)とします。



【選定理由】

- ・地震による津波浸水被害の心配がなく、ユニバーサルデザインの安全・安心な施設
- ・多くの来場者を収容する広大な駐車場を有し、アクセスも便利
- ・毎年秋の「木づかいフェア」の開催で、「木づかい」の拠点として認知
- ・園内の他施設や徳島スポーツビレッジと併せて、来場者が1日滞在可能
- ・藍住インターから近く、板野インターやJR板野駅から車やバスで5分程度の位置に立地し、四国、関西方面等からの来場も期待
- ・あすたむらんど徳島の開園20周年(令和3年度)に併せたリニューアル

(2) 立地条件を活かした整備

- あすたむらんど徳島及び周辺の景観に調和した整備を進めます。
- 駐車場、入場ゲート等、共有スペースが多く、あすたむらんど徳島の回遊性や連動性を高めてさらなる賑わいの創出を図ります。
- 近隣県や関西方面からのアクセスの良さを活かし、徳島の木の豊かさと魅力を県内外へ発信します。

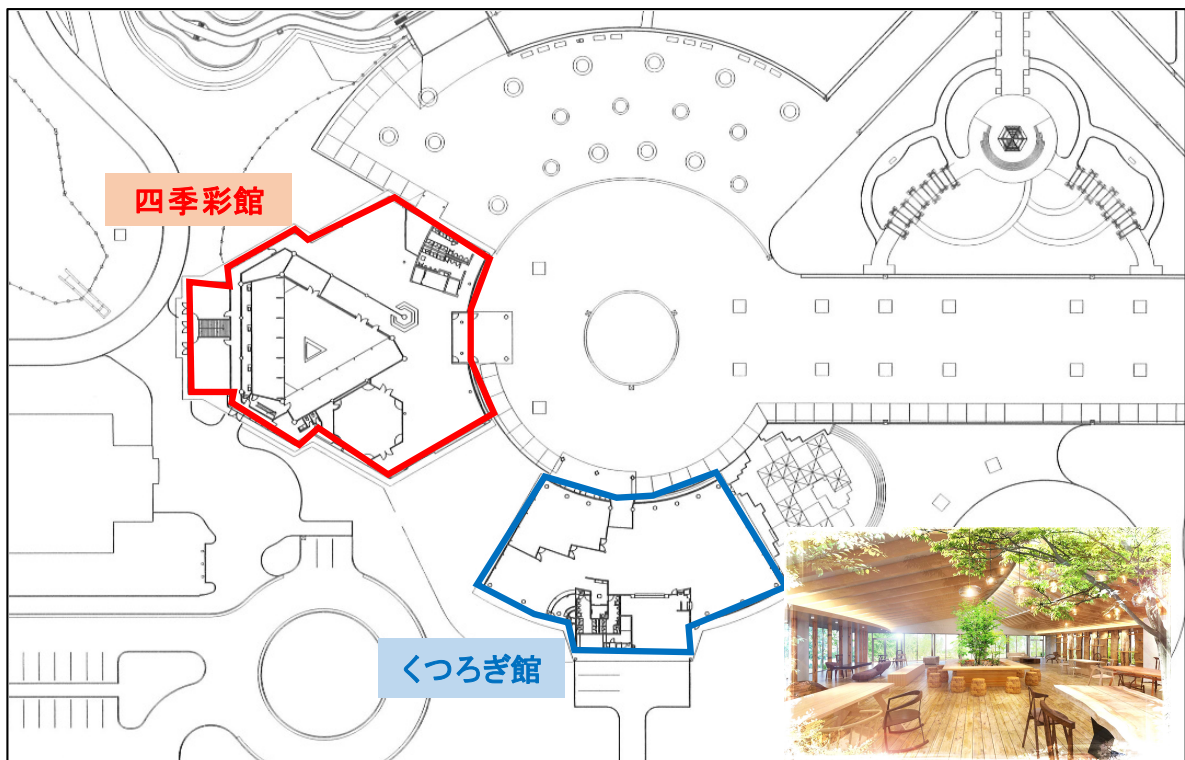
(3) 県民に親しまれ永く利用されることに配慮した整備

- 誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮します。
- 防災機能、5G、Wi-Fi環境を装備します。
- 徳島すぎをはじめ県産材をふんだんに使用し、洗練された木のおもちゃ、木製品、伝統工芸品などを配備し、県産材の魅力を発信します。

2-2 施設の内容

(1) 整備のポイント

- 徳島すぎをはじめとした県産材をふんだんに使い「四季彩館」を全面改装します。
- 四季彩館と隣接する飲食・物販・休憩スペースの「くつろぎ館」も同時に木質化を行い、1日中滞在できる魅力あるゾーンとします。



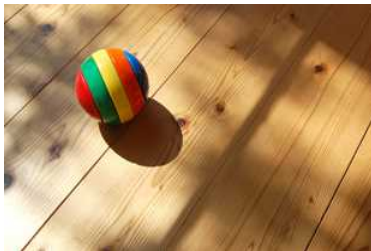
- あすたむらんど徳島の正面入口からの当館に向けての導線のサインや展示物の設置等については、関係者との協議を踏まえ、木のおもちゃ美術館にふさわしいストリートを創出します。

*なお、四季彩館内にある「あさんライブミュージアム」展示施設は撤去し、あすたむらんど徳島内の別の場所に、活動を紹介するスペースを確保します。

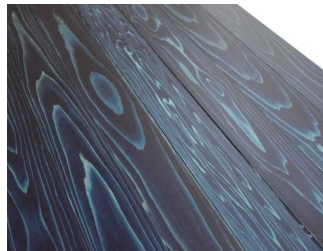
(2) 施設に使用する材料及び調達方法

1) 材 料

内装に使用する木材は、徳島すぎの製材品をはじめ、藍染杉や焼き杉、つき板シートなど徳島の特色ある製品を使用します。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後に返還される選手村ビレッジプラザに使用された県産材もレガシーとして使用します。



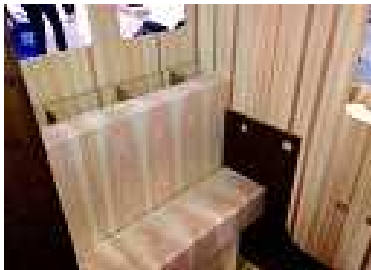
徳島すぎフローリング



藍染杉



焼き杉



つき板シート



ウッドプラスチック

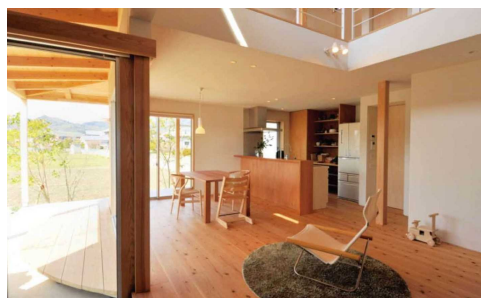


選手村ビレッジプラザ使用

また、什器や備品についても県産材を利用するとともに、木造住宅が楽しめる空間には木製家具や阿波指物作品を展示します。



什器 (展示用)



木造住宅



家具



阿波指物 (障子)



食器

館内に、配備する県産材を使用した木のおもちゃは、東京おもちゃ美術館の監修により、県内の事業者が制作します。



ゆずのおもちゃ箱



木の汽車・木馬

2) 調達方法

基本的には、施工の段階で受注者が調達します。

ただし、大型木材遊具等の木材は、伐採・乾燥期間等が必要なことから、事前に調達する必要があるため、県内から事前に調達する手段を検討します。

- ▷ 県内の森林所有者や林業事業者へ広く木材（大型材）の提供を呼びかけ
1人・1団体一つで、変木、元玉等市場価値の少ない奇抜なものを募集



(3) 施設の機能

東京おもちゃ美術館の姉妹館として、赤ちゃんから高齢者の方まで多世代が集い、木のおもちゃを媒体に自然と楽しいコミュニケーションが取れる環境や、木がもたらす伝統や文化を体感できるなどの機能に加え、徳島ならではの川上から川下に至る木の利用の流れを体感して学べる施設とします。



1) 徳島ならではの機能・物語

① 徳島に息づく木の文化の「見える化」

徳島県の林業は、奈良・平安時代の頃から発達したと言われ、古文書には鎌倉・室町時代に近畿地方に木頭産材が使われたという記録が残るなど、スギの生育に適した気候風土や川や海に恵まれた立地条件を活かし木材の流通加工が発展しました。

さらに阿波水軍により海上輸送が発達し、大阪・東京へ板材が大量に出荷され、木材は藍とともに徳島の経済を発展させるとともに、軍用船の用材としても使われ、その廃材を利用した下駄、建具づくりから木工家具製造業が盛んになったと言われています。

こうした徳島の林業、木材産業等の輝かしい歴史を未来へと伝える場とします。



▷ 館内で山仕事や木が発展してきた歴史を最先端器機を利用して遊びながら学ぶ

②「遊山箱」「人形浄瑠璃」などの伝統文化の体感・発信

本県独自の風習である節句の弁当箱「遊山箱」、農村舞台で奉納された「阿波人形浄瑠璃」など、森林県ならではの伝統文化があり、今でもその伝統が引き継がれてきたものを体感し、その古くて新しい文化を継承します。

- ▷ 館内では木のおもちゃのに入った「遊山箱」を持って「おもちゃのもり」の散策や、「遊山箱」の絵付けを体験

③豊かな森林を活かした演出

本県の豊かな森林や木の魅力を伝えるため、館内各所にミュージアムツリーとして、様々な樹種・樹齢の木を展示します。

さらに、順路を巡ると木の成長や木が利用されるまでを体感できるようなストーリー性を持った演出を施します。



④「お接待」の風土に根ざした全国一のおもてなし

四国八十八ヶ所巡礼の旅の出発地でもある徳島に根付いている「お接待」の文化により、施設を訪れる方に徳島の木の良さを体感していただけるよう全国一の「おもてなし」を実現します。



- ▷ 館内で「おもちゃ学芸員*」から出された遊びをクリアすると「お札（おふだ）」をもらえ、複数枚集めると、徳島の木のおもちゃと交換

* 館内で木の魅力や知識、木のおもちゃの遊び方や良さを伝える「専門ボランティアスタッフ」

2) 施設内に整備する具体的空間

【赤ちゃん木育広場】(集い・遊び)

0～2歳児とその保護者の専用の木育ルーム。
十分な広さを確保し、家族親子で安心して楽しむことができ、赤ちゃんだけでなく大人も過ごしやすく家族で木に親しむ心を育む空間とします。



- ▷ 徳島すぎ大径木のトンネル
- ▷ 徳島すぎ木球プール
木球は県内の小学生等に研磨を依頼

【ごっこフォレスト】(集い・体験・学び・にぎわい発信)

「川上から川下まで」を遊びながら体験でき、山の木が里において、生活の中に利用されるまでのストーリーを演出します。

また、林業や木材産業、大工などの職業や、木造住宅をVRでの仮想体験やQRコード・ARでの視覚体験を行うなど、将来、木に携わりたいと思えるきっかけとなるような空間を創出します。



▷ 仕事の疑似体験

VR (仮想現実) : 林業 (植林・チェーンソー伐採・林業機械運転など)
大工 (鉋がけ、加工、釘打ちなど)
住空間 (住宅建築・リノベーション・非住宅内装など)
伐採・加工・建築現場ヘトリップ

QRコード : 林業事業者、製材事業者、設計士、建築士、大工等の紹介

徳島の林業の歴史を学び、歴史に裏付けされた生活文化について知る空間とします。

▷ 学びの疑似体験

QRコード : 森を学ぶ (水源のかん養・CO₂吸収・災害防止など)
林業の歴史を学ぶ

AR (拡張現実) : 木材利用 (生活の中での木材利用事例・樹種毎による利用方法など)

また、森の恵みからもたらされる徳島県の農林水産物の模擬収穫体験ができる空間を提供します。

▷ 徳島の主要な農林水産物を象った木のおもちゃの収穫体験

- ・ なんと金時・すだち・しいたけなどの収穫・調理体験
- ・ 鳴門鯛・鱧等の釣り体験



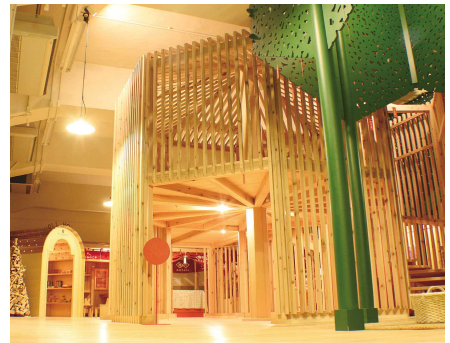
【おもちゃのもり】(集い・体験・学び・遊び)

最高の天井高を誇る「カレイドシアター」を
広大な「おもちゃのもり」として演出します。

かつては、子どもたちは毎年4月3日になると、
自分の遊山箱にご馳走を詰め込んで、野山へ遊び
に出かけていました。



ここでは遊山箱を「おもちゃ箱」に見立て、
それぞれ違うおもちゃの入った遊山箱を数多
く配置し、遊山箱を持ってピクニック気分
で遊べる空間を提供します。



内部を、2層で構成し、第1階層は「木
おもちゃのフロア」とし、「つみきひろば」や
「木球プール」など、徳島の木の魅力を感じつつ、
比較的大人数で遊べる空間とし、第2階層は遊山箱を持ち込んで楽しむスペース
を提供します。

【おもちゃのまち】（集い・学び・遊び）

世界中のアナログゲームやボードゲームが楽しめるコーナーで、将棋、オセロなど古くから親しまれるゲームに加え、最新のカードゲームなどを設置し、子どもからお年寄りまで、幅広い世代で楽しめる空間とします。



また、様々な木造住宅に見立てた小部屋を配置し、それぞれの部屋で遊びが体験できる空間とします。

- ▷ 木造軸組工法や板倉工法など住宅の建築方法が見える小部屋

【木育こうぼう】（体験・学び）

手作りおもちゃ体験を通し、自らおもちゃを作り出す達成感や、工夫する楽しさ、道具の使い方を学ぶ空間を提供します。

各地域の様々な木を準備するとともに、最新の電動糸鋸等を設置し、木工体験ができる空間を提供します。



- ▷ 使用する木材は、各地の製材業や、木工業で発生した端材
- ▷ 遊山箱の製作・絵付け体験

【阿波人形浄瑠璃の小屋】（体験・学び・にぎわい発信）

ミニ農村舞台を設け、人形浄瑠璃に加え、紙芝居、ミニコンサート、読み聞かせなどの多様なイベントの用途にも使用できる空間とします。



【グッド・トイ展示】（集い・遊び・にぎわい発信）

全国のおもちゃコンサルタントが選定する「グッド・トイ」のみを取り揃えた専用ルーム。

歴代の受賞作品をはじめ、国内外の展示されたおもちゃは、すべて手にとって遊ぶことができ様々な角度から子どもの感性を刺激する空間とします。



- ▷ グッド・トイに選定された優秀作品を毎年東京おもちゃ美術館から寄贈

【企画展示のもり】（学び・にぎわい発信）

東京おもちゃ美術館の収蔵する全国の木のおもちゃや、徳島にまつわる郷土玩具や伝統工芸などの企画展示コーナーを設け、木がもたらす文化や伝統について子どもから大人までの学びの機会を創出する空間とします。

- ▷ 定期的な企画を実施
市町村の日、木造住宅相談、木育広場連携等
- ▷ 全国姉妹館を巡回する企画巡回展
- ▷ 伝統を学ぶ
QRコード：本県の木を使う技術や伝統木製品を知る



【研修室】（集い・学び・にぎわい発信）

「おもちゃ学芸員」や「木育インストラクター*」、木材産業関連団体の発信する人材育成プログラムの研修拠点とします。

このほか、団体の遠足利用時の休憩室、大学・専門学校等の課外学習時や視察時のレクチャールームなど、多目的に使用できる研修室とします。

- * 県内各地で木育の普及啓発を行うインストラクターで、現在34名が認定
主な活動として、
 - ・各地の木育広場での指導
 - ・木育広場等のおもちゃの貸与・回収
 - ・地元市町村の幼稚園や小学校等での木育活動やPR、イベントの企画・立案

【ミュージアムショップ】（遊び・にぎわい発信）

館内での体験を、自宅などの日常のなかでも継続していただくため、施設のコ
ンセプトに基づく木のおもちゃなどを販売します。

また、県内の家具をはじめとする木工作品の代表的な発表の場所としても活用
します。



▷ 県内の木のおもちゃ作家を養成し、洗練された木のおもちゃを販売・展示

▷ 木のおもちゃの「ガチャガチャ」の配置

県内の木のおもちゃ作家が様々なミニ木製おもちゃを
製作し、カプセル入りで販売



【ミュージアムガーデン&屋外広場】（集い・体験・にぎわい発信）

あすたむらんど徳島との「独立性と連続性」、「にぎわい創出」などを勘案し、
くつろぎ館との間にある中庭をミュージアムガーデンとして活用し、建物の外で
の木育ワークショップや来館者が行き交うポケットパークとしても利用します。



第3章 運営について

3-1 運営体制

(1) 運営方針

当館は、木に触れ木の良さを体感していただき、生活の中に木を取り入れてもらうことを目的としており、その趣旨を十分理解するとともに、赤ちゃんから高齢者まで全ての世代の方々が集う施設とすることから、安全管理面はもとより、「遊び」、「体験」、「学び」を通じて、来館者に楽しみや喜びを感じてもらい、共感や信頼、そして豊かな感性を創出でき、木育の輪が広がるよう運営を行う必要があります。

(2) 運営方法

1) 運営者の選定

当館の運営は木育に精通していることはもとより、赤ちゃんから高齢者まで様々な世代の方が来場するため、子育てや福祉の知識・ノウハウを必要とするほか、数多くの木のおもちゃや木製品の手入れやメンテナンスを行うことに加え、多くのボランティアスタッフを導入するなど、各々の専門的な知識や経験、運営能力、経営のノウハウが必要となります。

運営方法については、直営、委託、指定管理者制度が考えられますが、当館の設置の目的を効果的に発揮させるためには、民間事業者が有する知識やノウハウを活用することで、県民へのサービスの質の向上や運営に係るコストの縮減を図ることができる指定管理者制度を導入することが適切と考えられます。

なお、県営施設のうち、33施設群、46施設（平成31年4月1日現在）で指定管理者制度が導入され、民間事業者やNPO等が、これまで培った専門的な知識や様々な経験、運営能力、経営ノウハウが活用されています。

2) 入館料の設定

当館は、来場者の方に対し、良質な展示やサービスを提供するため、有料の施設とします。

入館料は、全国の姉妹美術館やあすたむらんど徳島の有料施設、近隣の同等施設の料金や県民の方々の意見も参考に決定します。

また、県民への優遇措置や団体割引、年間パスポート制度等の検討も行い、多くの方の来場が期待できる料金制度を導入します。

3) 運営上の工夫

①姉妹美術館としての運営効果

当館は、東京おもちゃ美術館の姉妹館として、毎年、全国おもちゃコンサルタントが認定するグッド・トイを無料贈呈されるほか、木のおもちゃの作家展をはじめとする企画巡回展の開催や人材育成の支援を受けることができます。

②ボランティアスタッフ（おもちゃ学芸員）の活用

高校のボランティアサークルや大学の教育・福祉課程、及び子育てサークルなどの若い学生をはじめ、シルバー大学校のアクティブシニアの方など、様々な方々に豊かな出番と楽しみを体感できる場を提供し、当館スタッフとして活躍していただきます。

③【木育こうぼう】への資材提供

県内の幅広い方々に参画していただく視点から、「木育こうぼう」で利用する材料の調達については、製材や木工事業者の端材を提供していただく仕組みを構築します。

(3) 運営主体

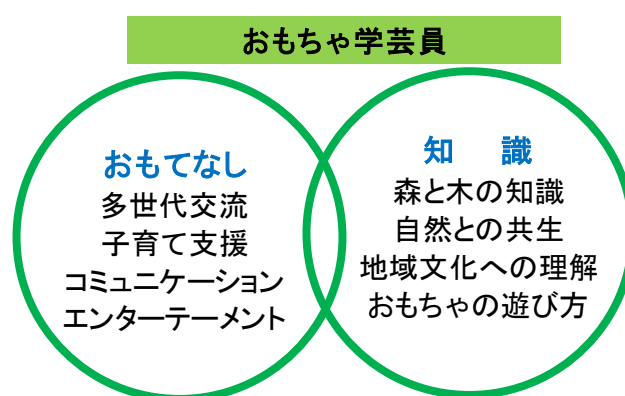
当館は木育の中核拠点として整備することから、次の要件を満たす事業者・団体等を運営主体とすることが望まれます。

- ・ 県内で木育活動の実績
- ・ 木育インストラクターの在籍
- ・ 県内の木育関係団体との連携の構築
- ・ 県内の木材・木製品業界の協力を受けることが可能
- ・ 県民総ぐるみの木づかい運動に賛同し、積極的に参加
- ・ ボランティアを活用し県民が参画

3-2 スタッフ（職員・おもちゃ学芸員）

（1）人数と配置計画

当館では、赤ちゃんが利用できるスペースをはじめ、木のおもちゃでの遊び、木工体験など様々な体験・展示施設を設けることから、円滑な運営を行うためには、適切なスタッフの配置や人材の充実は要であり、「木育インストラクター」の資格を有する常勤職員に加え、東京おもちゃ美術館をはじめ全国の姉妹館で採用している「おもちゃ学芸員」制度を全面的に取り入れます。

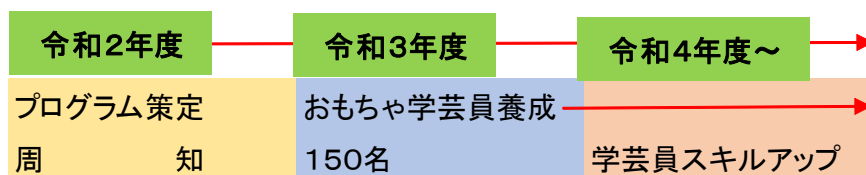


（2）人材育成

東京おもちゃ美術館の学芸員養成プログラムに、徳島の木の文化や歴史などを加えた独自の養成プログラムを策定し、おもちゃ学芸員を開館前までに150名を目標に養成を行います。

人材の確保については、社会福祉協議会、県内の高校・大学、徳島県立総合大学校や徳島県立シルバー大学校などに協力を呼びかけます。

また、開館後も、運営団体によりおもちゃ学芸員の養成とスキルアップを継続して行います。



3-3 関係機関等との連携・協働

(1) 県内林業・木材産業、子育て支援団体等

県民総ぐるみの木づかい運動の推進役である「とくしま木づかい県民会議」や、木育活動を熱心に行っている団体・事業者と連携を図ります。

- ① 「とくしま木づかい県民会議」では、毎年あすたむらんど徳島において木づかいフェアを実施しており、木工工作や様々なワークショップにおいて連携を図ります。
- ② 県内の森林所有者、林業・製材・木工事業者の方々には、施設の木材提供や【木育こうぼう】で使用する材料の提供に協力していただきます。

- ▷ 館内の木材（大型材・特殊材）の調達
県内の森林所有者や林業事業者などから公募
- ▷ 館内で遊ぶ木工体験の材料の調達
県内の製材、木工事業者の方からの端材を提供していく仕組みを構築
- ▷ 徳島すぎの木球プールの木球
県内の幼稚園・小学校などに磨いてもらったものを利用

- ③ 那賀高校や城西高校神山校、池田高校三好校、徳島科学技術高校などの高校と当館での木育イベントや森林・林業のPR活動、また、木製品の製作・販売などにおいて連携を図ります。
- ④ 徳島大学や鳴門教育大学などの大学と木育のイベントや調査研究などにおいて連携を図ります。

(2) 県内の木育関連施設

県内20か所にある木育体験施設「すぎの子木育広場」やウッドスタート宣言を行った市町村のサテライト拠点等とのネットワーク化、また、イベント企画や人材の交流等を図ることにより、各施設の魅力やにぎわいの相乗効果を創出します。

【すぎの子木育広場において】

- ▷ 当館と県内木育広場20か所を巡り、それぞれの御朱印を書いてもらい、達成すると記念品をプレゼント
- ▷ 木育インストラクターが関与し、木育広場への当館からのおもちゃの貸出し
- ▷ 当館と連携し、木育インストラクターが行う木育関連施設でのイベント実施
- ▷ 木育インストラクターによるすぎの子木育広場の運営支援

【サテライト木育拠点において】

- ▷ 森林散策などができる「木育ツーリズム」を展開
- ▷ すぎの子木育広場を利用した方が、当館で遊び、より活動を行いたい方は、サテライト拠点で植栽や伐採などのリアル林業体験や木工体験等ができる体制を構築

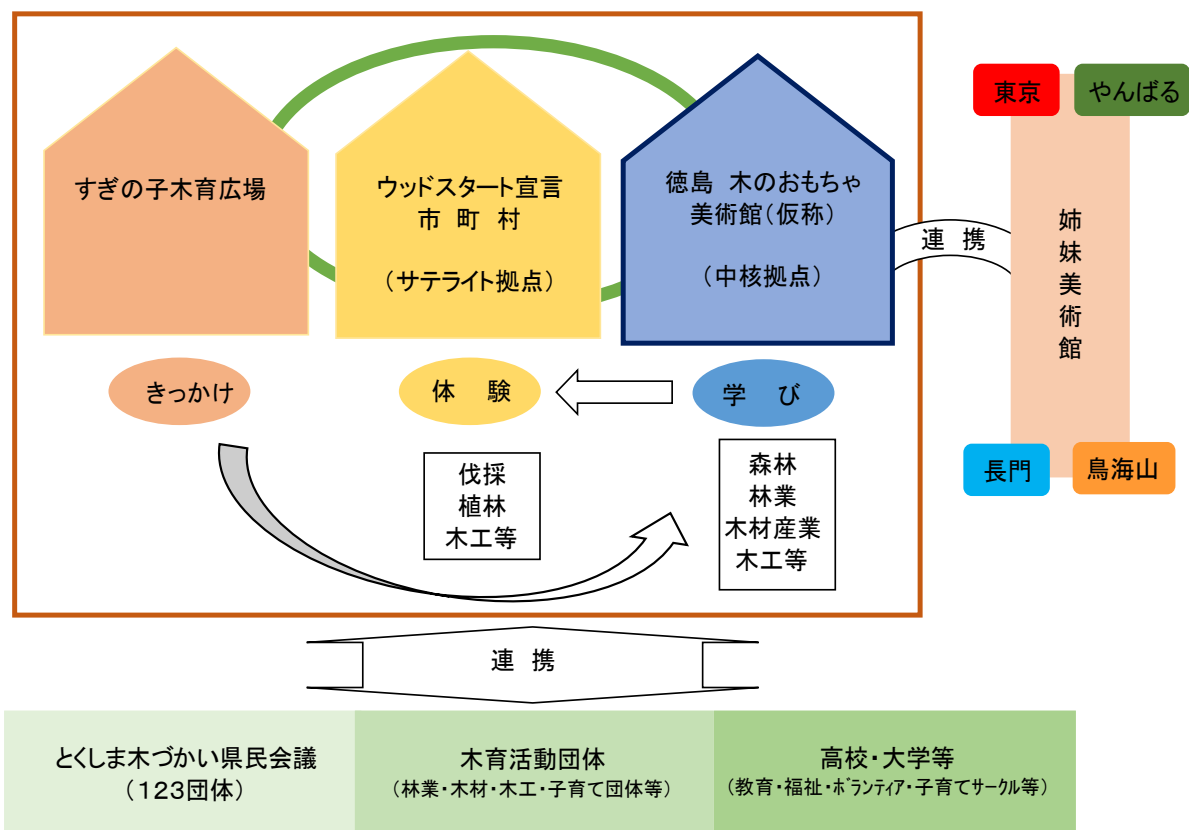
(3) 全国の姉妹美術館

全国の姉妹美術館は、東京おもちゃ美術館からの様々な支援制度があり、現在、「やんばる森のおもちゃ美術館」(沖縄県国頭村)、「長門おもちゃ美術館」(山口県長門市)、「鳥海山木のおもちゃ美術館」(秋田県由利本荘市)の3館が開館されているほか、令和3年度末には9館がオープンする予定です。

【支援内容】

- ・館内運営支援：認定グッド・トイの無料贈呈、企画巡回展示の開催など
- ・人材育成支援：新人スタッフ育成研修、各種講座の現地開催など
- ・広報PR支援：美術館HPやSNSでの紹介、パンフレットの配備など
- ・ミュージアムショップ運営支援：経営支援、おもちゃの開発・販売支援など
- ・全国姉妹美術館館長会議：意見交換、情報共有

また、全国の姉妹美術館と連携し、県産材の魅力を全国に発信し需要拡大に取り組めます。



3-4 集客戦略

(1) 情報発信

当館のHPやSNSでの情報発信はもとより、連携団体とのHPのリンクやグループ化を図るなど情報発信を行うとともに、各種イベントの企画を実施するなど、様々な方に整備や運営に関わっていただくことで情報発信につなげます。

- ▷ 全国姉妹美術館による情報発信
- ▷ 全国の木育アンバサダーによるSNSや全国の姉妹美術館の名刺での広報
- ▷ おもちゃ学芸員の募集や参画によるPR

(2) 入場者予測

他のおもちゃ美術館の入場者数や、現在のあすたむらんど徳島の来場者数の状況に加え、四国の他県や関西圏からの新たな入場者を予測することとし、多くの人の来館を目指すとともに、リピーターの割合を高めるよう、魅力ある施設運営に努めます。

(参考)

あすたむらんど徳島には、ここ数年40万人を超える方が来場しています。

また、全国の姉妹美術館の平成30年度の入場者数は、東京おもちゃ美術館では14万人、長門おもちゃ美術館では4万人、鳥海山木のおもちゃ美術館6.9万人、やんばる森のおもちゃ美術館では1.4万人となっています。

(3) 県民との協働による集客

当館は、幅広く多くの方々に参画していただくことを念頭に、様々な協働の体制を構築し、来館者の増加につなげます。

① 1口館長制度

当館の運営・活動を寄付によって協力する制度で、様々な特典の準備を検討します。

② クラウドファンディング

当館のにぎわいをさらに向上させる「プラスα」の付帯機能を装備するため、一定の目的をもって寄付を募ることを検討します。

* 長門おもちゃ美術館では廃船を木育クルーズ船へと改修を、鳥海山木のおもちゃ美術館では駅舎の改修を行っています。



長門おもちゃ美術館



鳥海山木のおもちゃ美術館

③ 県内の森林所有者、林業・製材・木工事業者

館内に使用する大型木材の提供や木工を行う材料の提供をいただく仕組みを検討します。

④ 幼稚園児や小学生等

木球プールの木球の研磨作業を依頼する仕組みを検討します。

⑤ 高校生や大学生等

イベントや調査、研究など協働での実施を検討します。

第4章 整備スケジュール

令和3年度末のオープンに向けて次のスケジュールで整備します。

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度
施設整備	基本構想	○		
	基本設計・実施設計		○	
	施工			○
木のおもちゃ 製作・購入	設計・購入計画		○	
	製作			○
	購入			○
おもちゃ 学芸員養成	プログラム作成		○	
	養成			○

【参考資料】

「徳島木のおもちゃ美術館(仮称)」建築に向けた専門タスクフォース

○構成員

区分	所属	役職	氏名
林業	(公社)徳島森林づくり推進機構	主任	佐々木 愛
	徳島県森林組合連合会	総務指導課長	烝原 大樹
木材	徳島県木材協同組合連合会	主任	金磯 牧夫
	徳島県木材買方協同組合	専務理事	大阪 省吾
	(株)フォレストバンク	—	渡邊 真央
建築	徳島県建築士会	—	島田めぐみ
子育て	NPO法人子育て支援ネットワークとくしま	理事長	松崎美穂子
教育	徳島大学(大学院社会産業工学研究部)	教授	小川 宏樹
	鳴門教育大学	名誉教授	尾崎 士郎
デザイン	graf awa branch	—	千葉 禎
行政・県	危機管理部消費者くらし政策課	主任主事	城尾 弘志
	県民環境部県民文化課	主任主事	矢野 遙子
	保健福祉部長寿いきがい課	主 事	山名 結佳
	商工労働観光部にぎわいづくり課	主任主事	須藤 孝彦
	農林水産部もうかるブランド推進課	主 事	福田久仁香
	農林水産部林業戦略課	係 長	脇田 太
		主 任	川上 恵美
教育委員会生涯学習課	主任主事	齋藤 季美	

○アドバイザー

所属	役職	氏名(敬称略)
東京おもちゃ美術館	館 長	多田 千尋

専門タスクフォースでの議論の経緯

	開催日	検討内容
事前	令和元年 7月10日	庁内タスクフォースの検討結果の共有と意見交換
第1回	9月 3日	基本コンセプト、機能、整備場所について意見交換
第2回	10月23日	基本コンセプト、機能、整備場所の検討
第3回	11月 1日	基本コンセプト、機能、整備場所の検討
第4回	11月10日	基本コンセプト、機能、整備場所の意見集約
	11月29日	「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」基本構想策定に向けた意見書（中間とりまとめ）提出
第5回	12月 4日	機能、運営方法の検討
第6回	令和2年 1月14日	機能、運営方法、情報発信の検討
第7回	2月12日	基本構想（案）の検討
第8回	3月中旬予定	基本構想（最終案）の意見集約